

※ 解答及び配点はイーアカウントが独自に作成したものです。

第10回建設業経理士1級財務分析 解答速報

※ 解答及び配点はイーアカウントが独自に作成したものです。試験機関による実際の正解・合格を保証したものではありません。ご了承の上ご覧ください。また、解答の著作権は、株式会社 TRADECREATE イーアカウントに帰属します。

第1問 (20点) (イーアカウントの予想配点です。)

問1

実数分析とは、財務諸表に示されている数値を実数もしくは絶対数のまま分析する方法である。損益計算書において実数分析は、単純分析、増減分析、均衡分析に大きく分けることができる。ここに増減分析とは、2期間以上にわたる1企業の財務諸表の各項目を比較して、その増減を分析し、さらに増減の原因を明らかにするものである。そして、損益計算書の増減分析において作成される表としては比較損益計算書及び利益増減分析がある。

比較損益計算書とは、複数期間の損益計算書を比較形式で作成したものである。比較損益計算書の分析方法として、1企業の損益計算書の各項目を、前期ないし過去数期間の同一項目と比較して、各損益項目の増減を分析することによって経営活動の動向を把握することができる。

一方、利益増減分析表とは、比較損益計算書をさらに発展させたものであり、1企業の複数期間の利益を比較し、その増減原因を実数で分析するために作成される表である。比較損益計算書の増減項目が最終的な利益の増減にどのような影響をしたか明確でないことから利益の増減原因別に分類した利益増減分析表が作成されているのである。

第2問 (15点) 1および13は2点、その他各1点 (イーアカウントの予想配点です。)

1	2	3	4	5	6	7	8
サ	ネ	チ	エ	セ	フ	イ	カ

9	10	11	12	13
シ	ア	ナ	コ	ヘ

第3問 (15点) 各3点 (イーアカウントの予想配点です。)

(A) 百万円(百万円未満を切り捨て)

(B) 百万円 (同 上)

(C) 百万円 (同 上)

(D) 百万円 (同 上)

固定資産回転率 回(小数点第3位を四捨五入し、第2位まで記入)

※ 解答及び配点はイーアカウントが独自に作成したものです。

第4問 (20点) 各5点 (イーアカウントの予想配点です。)

問1 ¥ (円未満を切り捨て)

問2 % (小数点以下を四捨五入)

問3 % (同上)

問4 ¥ (円未満を切り捨て)

第5問 (30点) (イーアカウントの予想配点です。)

問1 (20点) 各2点

- A 総資本事業利益率 (2.67) % (小数点以下第3位を四捨五入、第2位まで記入)
- B 経営資本営業利益率 (2.88) % (同上)
- C 完成工事高キャッシュ・フロー率 (2.23) % (同上)
- D 当座比率 (132.86) % (同上)
- E 運転資本保有月数 (1.78) 月 (同上)
- F 借入金依存度 (18.69) % (同上)
- G 有利子負債月商倍率 (1.95) 月 (同上)
- H 純支払利息比率 (0.19) % (同上)
- I 支払勘定回転率 (3.51) 回 (同上)
- J 付加価値率 (29.87) % (同上)

問2 (10点) 各1点 3のみ2点

(1)

1	2	3	4	5	6
ウ	ト	カ	ソ	ヘ	シ

(2)

7	8	9
タ	セ	ハ